

カンボジアの教育現場の現状と 支援のあり方について考える チャリティー上映会 & シンポジウム

1975年、カンボジアではポル・ポトと彼の配下にあったクメール・ルージュによる独裁政権が始まり、その恐怖政治を逃れるために国外へ脱出した難民が、日本にも数多くやってきました。カトリック吉祥寺教会の後藤文雄神父は、そのカンボジア難民の子どもたち14人の里親となって育て、後にカンボジアで19校の学校を作りました。2018年の今、カンボジアの教育はどうなっているのか、どのような支援が必要とされているのか、カンボジアからまさにその現場にいる2名のゲストを招いて、後藤神父と共に話し頂きます。

11/3(祝) カトリック吉祥寺教会 聖堂 18:00 開場

JR 中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口 駅ビルアトレ出口より徒歩5分

<第一部> 18:15~ 映画『father カンボジアへ幸せを届けたゴツちゃん神父の物語』上映

カンボジア難民の子ども14人の里親となって育て、現地で19校もの学校建設に尽力された後藤文雄神父の活動を追ったドキュメンタリー映画の鑑賞。(上映時間95分)

<第二部> 20:00~ シンポジウム「カンボジアの教育現場の現状と、支援のあり方について考える」

登壇者: 後藤文雄神父 ソムナム・ダッチ メアス・ブン・ラー

後藤神父の里子であり、カンボジアでの学校建設の中心的な役割を務めたラーさんと、少女売春に売られる寸前のところを後藤神父に助けられ、後に短大まで進学し、現在は中学の教員となったソムナムさん。後藤神父と共に現在のカンボジアの教育現場の現状と、支援のあり方についてお話頂き、ご参加の皆さんからの質疑応答も行います。(60分)



ソムナム・ダッチ

小学6年生当時、少女売春を目的とした身売りの危機にあった彼女の両親を後藤神父が説得し、その危機を逃れた彼女は勉学に勤しみ、中学、高校、短大へと進学。村で初めての中学の先生になり、現在も教員として学校に勤めている。

メアス・ブン・ラー

15歳で後藤神父の里子になる。1994年、カンボジアでの家族探しの旅の中で出会った寺の僧侶から、学校づくりを相談されたことをきっかけに、以来後藤神父や支援者とともに20年にわたり19校の学校を完成させてきた。

後藤文雄

1929年9月13日新潟県長岡市生まれ。1960年、カトリック司祭となり、カトリック南山教会、カトリック吉祥寺教会などを歴任。1981年よりカンボジア難民の子どもを里子として引き取り自ら育てはじめ、学校建設等、長きにわたりカンボジア支援を続ける。2006年第10回米百俵賞受賞。2007年第19回毎日国際交流賞受賞。主な著書に「カンボジア発 ともに生きる世界」(女子パウロ会)、「よし! 学校をつくろう」(講談社)があり、2018年9月13日に最新刊「今ここに」(講談社エディトリアル)が発売された。



主催: 一般社団法人ファザーアンドチルドレン 後援: アマタック友の会 / 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
協力: 特定非営利活動法人なんみんフォーラム / カトリック吉祥寺教会 お問合せ: 新日本映画社【担当: 甲斐】03(3496)4871